

ヒルフェ通信(2月号)

❖ そっと寄り添いやさしくサポート ❖

「公益社団法人成年後見支援センター
ヒルフェ」は高齢者、精神障がい者、知的
障がい者等の権利の擁護及び福祉の
増進に寄与することを目的として、東京都
行政書士会が設立した法人です。



◆「令和6年能登半島地震」に関する理事長声明

新年早々におきた能登半島地震により、多くの皆様が被災されました。亡くなられた皆様には哀悼の意を表しますとともに、避難所で不安な毎日を過ごされておられる皆様に心よりお見舞いを申し上げます。お正月で家族団らんの最中、突然の大きな地震と津波に襲われ、皆様の驚きと嘆きと悲しみは如何ばかりかとお察し致します。未だ、インフラが止まったままで孤立集落での避難生活を送られている皆様、また、健康面においても災害関連死に至ってしまった方、また震災につけ込む心無い詐欺事件が多発するなど、受難の生活が続いております。本当にお気の毒な事です。私たちができる事を考えながら、支援をさせて頂きたいと思っております。一日も早く心穏やかな生活に戻る事と早急な地域復興ができます事をヒルフェ会員一同、心よりお祈り申し上げます。

令和6年1月11日
理事長 山崎節子

※ヒルフェHPでは、「災害時緊急連絡用掲示板」を設けております。TOPページ、右上のボタンよりお入りいただけます。被災時ツールの一つとして認識いただき、今一度使用方法などをご確認くださいませようお願い申し上げます。(広報)

◆令和6年新年賀詞交歓会のご報告

令和6年1月9日(火)に、京王プラザホテル「コンコードボールルーム」において、東京都行政書士会・東京行政書士政治連盟・東京行政書士協同組合・公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ共催の令和6年新年賀詞交歓会が開催されました。

賀詞交歓会はコロナ禍の影響で2年間開くことができず、昨年は招待者の人数を減らす等十分な感染防止策を講じて開催されましたが、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が「5類」に引き下げられたのを受けて4年ぶりのフルスペック開催となりました。

賀詞交歓会に先立つ東京都知事感謝状授与式及び記念品贈呈式では、1月1日に起こった能登半島地震の犠牲者の方々に悼んで黙禱が捧げられました。

賀詞交歓会では雨谷幹彦副会長による開会の辞の後、主催者挨拶がありました。東京会の宮本重則会長からは、「行政書士に追い風が吹いている」ことの一例として、総務省より「財産管理業務、成年後見業務を行政書士が業として行うことができる」旨の通知があったこと、東京家庭裁判所立川支部において提出書類に行政書士が不動文字で記されたことのご紹介がありました。

その後來賓の皆様にご挨拶を頂戴しました。小池百合子東京都知事には高齢者支援の重要性について触れていただき、東京都議会の宇田川聡史議長からは成年後見制度の重要性についてのお話がありました。成年後見制度の意義がたくさんの方々に浸透していることが実感された次第です。

当日はヒルフェがお招きしたご来賓にも多数お越しいただき、大変ありがたく思いました。皆様、ヒルフェ会員の接待に感謝しておられたとのことでした。

鏡開きは山崎節子理事長とともに第三者委員会委員長・弁護士遠藤英嗣先生にお願いいたしました。

令和6年もヒルフェは高齢者、精神障がい者、知的障がい者等の方々が、安心して幸福な生活を送っていただけるよう尽力してまいります。今年もよろしくようお願い申し上げます。

(専務理事 東村次郎)

